

【実践報告】

学校栄養教育実習Ⅱの報告

広島文教大学人間科学部人間栄養学科

准教授 山 本 妃奈子

1 はじめに

栄養教諭一種免許状の取得を希望する教職課程履修学生を対象とした教育実習は、授業科目「学校栄養教育実習Ⅱ」に含まれる。本実習は栄養教諭としての修得すべき専門知識・技術に関する内容を中心に義務教育諸学校の教育現場で行うものであり、その目的は、栄養教諭としての使命感を自覚し、職務内容について理解を深め、教育に関する資質と栄養に関する専門性を実践的に育成することである。

2 実施のスケジュール

時 期	主な内容
4月～5月 事前学習 (学内)	<ul style="list-style-type: none">・本実習の意義、目的、心構え等を再確認する。・実習校への事前訪問により、指導担当教員から、実習校の学校教育目標を含む食に関する指導の全体計画や児童の実態、実習の事前課題について確認する。・実習校より出された課題について、授業等における食に関する指導の学習指導案の作成や指導媒体作成、給食指導の各種資料・媒体作成等を行う。・学内での模擬授業等を重ね、学科担当教員より指導を受けながら学生間で相互評価し、よりよい授業・教材になるよう工夫を重ねる。
6月～7月 本実習 (学外) 5日間	<ul style="list-style-type: none">・実習の内容は実習校により計画される。主な内容として、①指導教諭等からの学校・学級経営の説明、②児童及び生徒への個別的な相談、指導の実習、③児童及び生徒への教科・特別活動における指導の実習、④食に関する指導の連携・調整の実習が挙げられる。・実習期間中は教育実習日誌等へ実習内容や自己課題などを記録することにより日々省察し、栄養教諭の役割・業務等の実際について理解を深める。
8月～9月 事後学習 (学内)	<ul style="list-style-type: none">・各自の実習を振り返り、記録をまとめる。・実習校ごとに研究授業や給食指導をはじめとした実習内容や与えられた課題の取組を通して学んだことについて報告書にまとめる。また、すべての実習校の学習指導案を取りまとめた『学習指導案集』を作成する。・9/22に報告会を実施し、報告書にまとめた内容をもとに報告するとともに、研究授業の紹介を模擬授業として行い、栄養教諭を目指す下級生の資質向上にもつなげる。

3 活動の概要

(1) 研究授業の題目等（学生の報告資料より抜粋）

学年・教科	題目	ねらい
小学6年生 【家庭科】 TT形式	できることを増やしてクッキング (朝食に活かそう)	朝食の役割について知り、栄養バランスのとれた朝食を考えることができる。 食育の視点：心身の健康、食品を選択する能力

小学5年生 【特別活動】 TT形式	おやつを目安量について考えよう	おやつ役割と適切なおやつを目安量を理解し、自分の健康を考えておやつを目安を守ろうとする態度を育てる。 <u>食育の視点：心身の健康、食品を選択する能力</u>
小学6年生 【特別活動】 TT形式	野菜の働きについて知り、自分でどうしたら良いかを考えよう	野菜の栄養について、健康な体をつくるために必要な野菜摂取量を理解し、野菜を積極的に食べようとする意欲を育てる。 <u>食育の視点：心身の健康</u>
小学6年生 【特別活動】 TT形式	地場産物について考えよう	地場産物や、地場産物を食べる大切さを理解し、普段の食事に取り入れようとするなど、行動することができるようになる。 <u>食育の視点：感謝の心、食文化</u>
小学3年生 【特別活動】	何でも食べて元気にすごそう	3色食品群の働きを理解し、好き嫌いせずに何でも食べようとする意欲を持つ。 <u>食育の視点：心身の健康</u>
小学5年生 【特別活動】	おやつとり方について考えよう	・おやつを目安量を知り、望ましいおやつとり方について理解することができる。 ・今後のおやつとり方を決めることができる。 <u>食育の視点：心身の健康、食品を選択する能力</u>

(2) 教育実習を通して学んだこと（学生の報告資料より抜粋）

- ・栄養教諭が児童に関わる時間は少ないので、廊下ですれ違った際や、給食の時間、休憩時間等を活用して児童とコミュニケーションをとることで児童の実態把握に努め、授業に活かしていくことが大切である。
- ・栄養教諭による指導の機会に限られる中で、担任教諭の授業内容と関連付けた指導を行い、学習内容の定着を図るため、十分な連携が必要である。
- ・予測していない質問や反応にも対応できるように、幅広い知識と対応力が必要である。
- ・児童に気づきを促す優しい声掛けが重要である。
- ・児童自らが興味関心をもって主体的に学ぶ意欲を育てる授業をすることが大切である。
- ・机間指導の際は、児童を深く観察し、コミュニケーションをとることや良い意見は取り上げて内容を膨らませることも大切である。
- ・ICTを活用し、深い学びにつなげることが大切である。

4 成果と課題

昨年に続くコロナ禍の中、実習校のご尽力により予定通り教育実習を修了することができた。

教育実習で学んだこととして全実習生が共通して挙げていたことは、教科等による食に関する指導をより効果的なものとするためには、「日々の給食の残食状況や様々な機会を捉えて児童と積極的に関わることによる実態把握」と「担任教諭等との綿密な事前打合せ」の重要性であった。実習中に懸命に取り組んだことで体得できた成果といえる。特に、研究授業では試行錯誤しながら準備を重ね、様々なクラスで研究授業の機会をいただいた。クラスごとで異なる児童の反応や意見に戸惑いながらも「実体験」によりブラッシュアップしながら得た学びは、学生にとって大きな財産となった。教育実習報告会後にも後輩に熱い想いを伝え助言する学生の姿に教育実習を通して確実に成長を遂げたことがうかがえた。異学年交流の機会も活用し、先輩から後輩へと教育実習での学びを引き継ぐことも重要だと考える。

次年度も実り多き実習とするため、計画的に実習準備を進めることや実習先の指導教員との意思疎通を十分に図るなど、学生の自発的な取組を促していきたい。児童生徒に食に関する自己管理能力を涵養する上で、「楽しく学ぶ」ことは不可欠である。学生自らが探求心・好奇心をもって楽しみながら「食の視点」を拡げる取組を日々積み重ねていってほしい。